



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

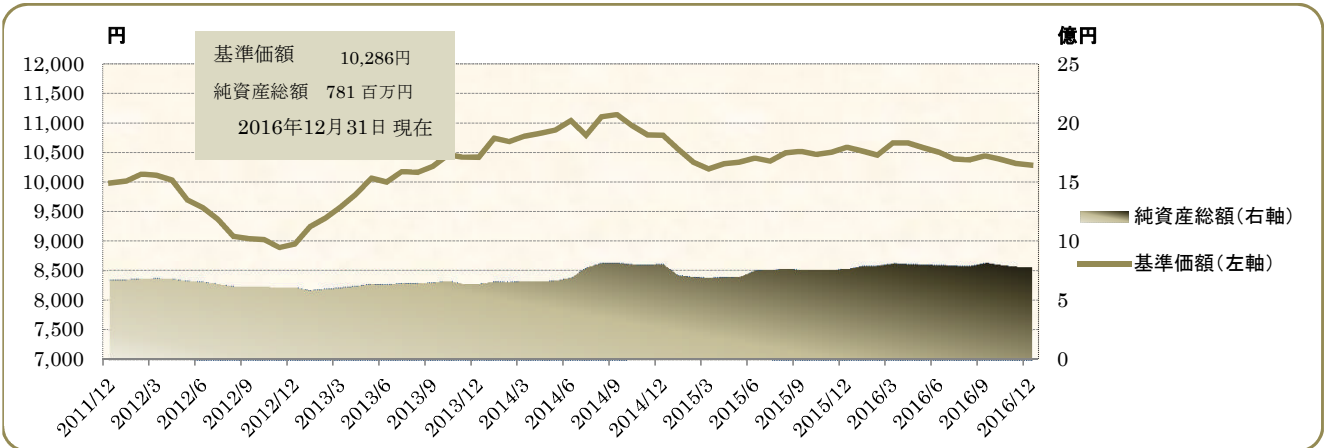
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年12月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

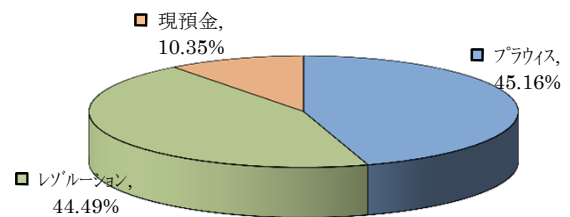
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2016年12月31日	
基準価額:	10,286円	対前月比 -30円
純資産総額:	781百万円	対前月比 -1.2百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-1.53%
基準価額騰落率	6ヶ月	-2.09%
設定来	ファンド	2.86%
基準価額騰落率	TOPIX	109.88%
	日経平均	127.51%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年12月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A ※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

12月の株式相場は、日経平均で4.40%上昇の19,114.37円、TOPIXで3.35%上昇の1,518.61ptとなりました。OPECの減産合意やFEBの利上げ決定、FRBの利上げペースが加速するとの見方から原油価格の上昇や円安が進み、上昇傾向となった後、短期的な過熱感から月末にかけて伸び悩みました。

上旬は、OPECが8年ぶりに減産で合意しました。原油高や米長期金利の上昇、円相場の急落から幅広い銘柄で上昇しました。イタリア国民投票の結果を受け欧州経済への不透明感から売られるも、外需株や金融株、割安感のある銘柄などに買いが集まりました。

中旬は、原油価格の上昇や欧米株高を受け上昇基調となりました。過熱感から利益確定売りが入りましたが、日銀金融政策決定会合後は買い安心感が広がり買いが入りました。

下旬は、利益確定売りと先高観による買いが交錯し、もみ合う展開が続きましたが、月末にかけて米株安や米長期金利の低下、円安一服などを背景に利益確定売りが優勢となりました。

需給面では、海外投資家が3ヵ月連続で買い越しとなりました。一方、国内の投資主体では、信託銀行が4ヵ月ぶりの買い越し、個人投資家は6ヵ月連続の売り越し、投資信託は3ヵ月連続の売り越し、事業法人が9ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、石油・石炭、証券、水産・農林・鉱業、電力・ガスが上位となり、その他製品、ゴム製品、パルプ・紙、空運、不動産が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.55兆円と、11月より減少したものの、活況の目安となる2兆円を上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが2.4%の上昇、東証マザーズ指数は2.2%の上昇となり、いずれもTOPIXをアンダーパフォームしました。

ファクター面では、7月から続いたバリュエラリーが一服しました。バリュエ好調の継続や中国景気の回復がコンセンサス化する中で、環境に合わせて投資スタイルを変化させる投資家は、バリュエに対するエクスポージャーを中立化、ないしオーバーウェイトする動きを12月第2週までに急速に進めた可能性があります。しかし、第3週以降はその反動が生じたとみられ、幅広いセクターでバリュエファクターがマイナス寄与に転じました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【プラウイス】 〈ファンド運用状況〉

12月の運用成績はJPYクラスで+0.04%となりました。12月前半はショートカバーと思われる買いにより、機械、石油セクターを中心にマイナスとなりました。12月後半はファンダメンタル回帰の動きが見られたことや、J-REITで割高・割安の修正が進んだこともあり損益は改善しました。

セクター別の損益では、REIT、情報通信、化学、ガラスセクターでプラスとなり、石油、機械、電気ガスセクターでマイナスとなりました。

【レゾリューション】 〈ファンド運用状況〉

月の後半まで、引き続き小型株が大きく売られていましたが、例年通り年末最終週にかなり戻す展開となりました。

株高の中も小型グロース株が蚊帳の外であり、年末に向けて放置銘柄のリバウンドや新しい高値更新銘柄の一部が強一方で、従来の主力小型株の上昇は限定的となりました。

ポートフォリオは、グロスエクスポージャーの抑制を行っていましたが、年末に向けてやや拡大させています。

増加させていたシクリカル銘柄や内需であっても個性の強い業績好調銘柄がパフォーマンスにプラス寄与となりましたが、月前半のマイナスをカバーするには至りませんでした。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

1月の株式市場は上値の重い相場展開を想定します。円安進行による企業業績の改善期待はありますが、トランプ次期大統領の言動に対する警戒感や、過去2ヵ月の大幅上昇により日本株のバリュエーション面での割安感も後退していることから上値は限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

大型株を中心とした株価上昇局面が一服し、徐々に小型株にマーケットの注目が集まりやすくなると思われますが、2016年前半に見られたようなバリュエーション拡大を伴う強い小型グロース相場の再来は想定しづらい状況と考えます。

一方で、高値からの調整が一服した好業績銘柄やシクリカルなボトム圏にある銘柄については、来期以降を睨んだ株価上昇が期待されます。

業績モメンタムの変化に留意し、業績拡大可能な割安銘柄の組入れと、競争力など中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユーケイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。